

『企業×〇〇で共に創る！新潟市東区オープンファクトリーから考える、 「産業のまち」東区のこれから』

開志専門職大学 事業創造学部 東城ゼミ
高杉菜々子

このたび、2026年1月31日に東区プラザホールで開催された「企業×〇〇で共に創る！新潟市東区オープンファクトリーから考える、『産業のまち』東区のこれから」に参加しました。当日は、「新潟市東区オープンファクトリー」の取り組みの総括として、参加企業と学生サポーターによる取り組みの発表やゲストによる先行事例紹介、クロストークセッションが行われました。

新潟市東区オープンファクトリーについて

「新潟市東区オープンファクトリー」とは、「産業のまち」「ものづくりのまち」として発展してきた東区の魅力を区内外に発信することを目的に、産官学金連携で開催されている取り組みです。2025年度の開催では、東区内の企業18社が参加し、本年度で3年目を迎えました。オープンファクトリー当日は、普段は公開されていない工場の見学やワークショップなどを通して、ものづくりの現場を体感することができます。

1. 開会の挨拶

初めに、新潟市東区オープンファクトリー実行委員会実行委員長を務める清水伸氏より新潟市東区オープンファクトリーの開催経緯や2025年度の開催実績、今後の課題についての報告が行われました。

2. 新潟市東区オープンファクトリー2025での共創の取り組み発表

次のプログラムでは、新潟市東区オープンファクトリーに向けて実施された、企業と新潟大学学生との共創による取り組みに関する発表が行われました。アイウッド株式会社、株式会社小野組、株式会社トゥクサイト、株式会社牧野塗装所がそれぞれ大学生サポーターと共に登壇し、企画からオープンファクトリー当日の運営に至るまでの過程や、共創の取り組みを通じて企業および学生が得た成果、今後の展望について報告しました。

発表を通して、企業と学生が協力することで、企業側にとっては学生視点を取り入れた企画立案やPR、認知度向上につながる効果が見られ、学生にとっては企画や運営を実践

的に学ぶ貴重な機会となっていることが示されました。

3. 先進事例紹介

次のプログラムでは、「燕三条 工場の祭典2025」実行委員会実行委員長を務めた秋元哲平氏より「工場の祭典」の成果や今年度の取り組み、今後についての先進事例紹介が行われました。

「燕三条 工場の祭典」について

「燕三条 工場の祭典」は、燕三条の工場を一般に公開し、見学や体験を通してものづくり技術の魅力を発信する、全国に先駆けたオープンファクトリーイベントです。2013年から開催されており、2025年度の開催で13回目を迎えました。今年度は過去最大の133の工場が参加し、来場者数も過去最多を記録しました。

本プログラムで特に印象的だったのは、燕三条地域が目指す産業観光の方向性についての考え方です。「産業観光」という言葉を改めて見つめ直し、「MakerScape」という新たな概念を提唱されていました。この概念には、「ものづくりをする人々（Maker）が創り出す、唯一無二の風景（Scape）」という意味が込められており、ものづくりそのものを体験し、感じ取り、共有することを目的としています。この先行事例を通して、産業をどのように発信し、地域の魅力向上にどのように活かしていくべきか、その在り方について改めて考える必要があると感じました。

4. クロストークセッション

最後に、「燕三条 工場の祭典2025」実行委員会 秋元実行委員長と有限会社阿部仏壇製作所 取締役 吉田氏、北陸重機工業株式会社 工場長 瀬戸氏、有限会社吉川鉄工所 取締役 吉川氏が登壇し、新潟市東区オープンファクトリー実行委員会 副実行委員長を務める高澤氏（新潟大学経済科学部 助教）の進行のもと、クロストークセッションが行われました。本セッションでは、新潟市東区オープンファクトリーへの参加に至った経緯や参加の効果をはじめ、今後の展望などに関する意見が交わされました。

オープンファクトリーへの参加背景として、企業の認知度向上を目的としている点が登壇者から共通して述べられました。また参加によって、地域住民をはじめとする幅広い層に企業を知ってもらう機会が生まれ、社内のチーム力向上や工場内の環境改善など、企業内部にも良い影響があったという意見が挙げられていました。一方で、企業間のつながりやオープンファクトリーで生まれた試作品がイベント当日で完結してしまい、その後につ

なかりにくいという課題も指摘されました。そのため、通年で一般の人が産業に関われる仕組みづくりや、企業同士の共創を次年度やビジネスへとつなげる持続的な取り組みが必要であるとの考えが示されました。

今後の東区オープンファクトリー

今回のイベント参加を通して、共創や産業観光について改めて考える機会となりました。

共創によって異なる立場の人々がともに同じ目標に向かって取り組むことで、新たな視点や学びを互いに得られることを実感しました。一方で、共創を一過性のものにせず、イベント後も継続的な取り組みへとつなげていくためには、共創に関わる人同士が同じ熱量を持ち、役割分担のバランスを意識しながら、双方にとってメリットのある関係を築くことが重要であると感じました。

また産業観光については、参加前は観光として多くの人が新潟市東区を訪れる状態を目指すものだというイメージを持っていましたが、本イベントを通して、新潟市東区の産業がブランドとして価値あるものであることを知る人を増やしていくことこそが重要であることを学びました。

今後もオープンファクトリーを継続して開催していく中で、「産業のまち」を盛り上げる取り組みを、参加していない企業や地域内外の人々に向けて発信していく必要があると考えます。さらに、新潟市東区が「産業のまち」として広く認知されることで、全国の他の産業のまちにも関心が広がり、産業のまち同士がともに盛り上がっていく動きにつながっていくことを期待したいです。